神楽名 浅ヶ部神楽

伝承地 浅ヶ部地区
高千穂町大字三田井

指定等 国指定重要無形民俗文化財

伝承団体 浅ヶ部神楽保存会
代表　甲斐 晃一郎

御　柴

❖ 神楽の概要・由来・その他

高千穂神楽の三田井系統に属する神楽である。祝子者は高千穂神社の氏子であり、高千穂神社、槵觸神社の春秋大祭や古神事「猪掛け祭り」など、高千穂神社関連の祭事における神楽奉納は三田井地区神楽保存会の中核として奉仕する。氏神祭の夜神楽は堂園、横手、山川、梅木、猿伏の５組が輪番で行っており、民家を神楽宿とするのが慣わしである。磐下権現神社で神事の後、猿田彦を先頭とした行列「道行き」が全集落を巡り神楽宿へ舞入れる。その後夕方から翌日昼過ぎまで、夜神楽が全く省略されることなく奉納される。

氏神社の磐下権現神社は、正徳３年（１７１３）「神社改書上帳」には熊野三社権現とあり、江戸期からの例祭日旧暦１１月１１日を「土の日」として祭祀していたが、平成１７年から１２月の第３土曜日に実施している。磐下は鎮座地名である。天明２年（１７８２）・弘化４年（１８４７）の神楽文書に、浅ヶ部出身の願祝子として田﨑助吉、樋口治吉郎の名がみえる。

❖ 芸能の機会・場所

- 浅ヶ部夜神楽．．．１２月の第３土・日曜日、磐下権現神社にて神事の後、神楽宿にて奉納
- 初午、彼岸の中日、稲荷祭、歳旦祭等で「式三番」を奉納

❖ 演目一覧

神事	宮神楽	道行き	舞込み	御神屋ほめ	彦舞	太殿
神蔵	鎮守	杉登り	地固	幣神添	住吉	太刀神添
八鉢	沖逢	弓正護	本花	岩潜	御神体	袖花
七貴神	五穀	武智	山森	大神	地割	日の前
柴引	伊勢神楽	手力雄	鈿女	戸取	舞開	御柴
注連口	繰下	雲降し				

※平成２６年度の神楽奉納番付に基づく

❖ 演目の特徴

『高千穂神楽』を著した小手川善次郎氏が、調査の対象とした神楽である。前半は祓い清めの舞や諸々の神を招く舞が続き、深夜には「目覚まし神楽」とも呼ばれる「御神体」「八鉢」などの面白い舞がある。岩戸開きの神話にちなんだ「岩戸五番」（「柴引」「伊勢」「手力雄」「鈿女」「戸取」「舞開」の六番）は高千穂神楽の代表的な演目であり、夜明けに奉納される。「御柴」は「柴上げ」とも呼ばれ、氏子の担ぐ柴に乗り勇壮に舞われる。最後に注連神楽として「注連口」「繰下」「雲下」で神々を送って終了する。

❖ その他の特徴

- 面...磐下権現、鈿女、御神体、山森、猿田彦、八鉢、手力雄 等
- 楽...太鼓、笛
- 装束...白衣、白袴、素襖（麻）、千早、裁着袴、毛笠、どっさり、烏帽子、天冠 等
- 採り物...鈴、榊、扇、御幣、杖（荒神杖等）、弓、矢、刀、麻緒、折敷、帯 等

❖ 伝承の現状・課題

明かりが漏れない工夫をして戦時の灯火管制中も舞うなど、夜神楽を一度も休むことなく続けている。２度のヨーロッパ公演、平成２６年のブラジルでの公演など海外との交流も盛んである。高齢化が進み地区民は減少の傾向にあるが、三田井地区の本組、後川内、上川登、下川登の保存会は夜神楽並びに日神楽で互いに協力研鑽し、伝承を守っている。

弓正護

御神体

戸取

宮崎県教育委員会　文化財課　平成２７年（２０１５）３月　発行